

Oracle Discoverer 3.1

インストレーションおよびアップグレード ガイド・ガイド

1998年8月

部品番号 A61499-1

ORACLE®

Enabling the Information Age Through Network Computing

Oracle Discoverer 3.1 インストールおよびアップグレード・ガイド

部品番号 :A61499-1

第 1 版 :1998 年 8 月

原本名 : Oracle Discoverer 3.1 Installation and Upgrade Guide

原本部品番号 : A60962-01

原著者 : Pauls Peplow

原本協力 : Barbara A.Luna, Phil Slater, Helen Dwight, Christina Gibb

Copyright © Oracle Corporation, 1998

All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラムの使用、複製、または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。

本書の情報は、予告なしに変更されることがあります。本書に問題を見つけたら、当社にコメントをお送りください。オラクル社は、本書の無謬性を保証しません。

危険な用途への使用について

当社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、又は医療の分野など、本質的に危険が伴うアプリケーションを用途として特に開発されておられません。当社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は顧客各位の責任と費用により行っていただきたく、万が一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、当社および開発元である米国 Oracle Corporation (その関連会社も含まれます。)は一切責任を負いかねます。

ORACLE は、Oracle Corporation の登録商標です。

本文中の他社の商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに	v
1 Administration Edition のインストール	
1.1 データベース要件	7
1.2 クライアント・プラットフォーム要件	9
1.3 Discoverer Administration Edition のインストール	10
1.3.1 Discoverer Administration Edition のインストール	11
1.3.2 カスタム・インストールの実行	16
1.4 Discoverer 3.1 へのアップグレード	21
1.4.1 Discoverer Administration Edition 3.1 へのアップグレード	22
1.4.2 End User Layer のアップグレード	22
1.4.3 内部管理サマリーのアップグレード	24
1.4.4 Discoverer 3.1 User Edition へのユーザーのアップグレード	25
1.4.5 Discoverer 3.0.8 End User Layer の削除	26
1.4.6 Oracle Discoverer Administration Edition 3.0 の削除	28
2 Discoverer/2000 からの移行	
2.1 概要	31
2.2 互換性	31
2.3 移行	31
2.3.1 既存の EUL からビジネスエリアを移行する	32
2.3.2 既存の問合せの移行	34

A エラー・メッセージ

A.1 データベース・エラー	37
A.2 EUL 所有者以外へのメッセージ	38
A.3 接続エラー	38

索引

はじめに

このガイドでは、次の内容を手順ごとに説明します。

- Oracle Discoverer 3.1 をインストールする
- Oracle Discoverer 3.0 からアップグレードする
- 既存の Oracle Discoverer/2000 End User Layer を Oracle Discoverer 3.1 に移行する

対象ユーザー

このガイドは、データベースとその Tools 製品を管理しているビジネス・システム管理者またはデータベース管理者の方を対象にしています。

関連文書

この製品の詳細は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Oracle Discoverer 3.1 リリース・ノート』
- 『Oracle Discoverer 3.1 管理ガイド』
- 『Oracle Discoverer 3.1 ユーザーズ・ガイド』
- 『Oracle Discoverer 3.1 チュートリアル』

表記規則

このガイドで、Discoverer とは Oracle Discoverer 3.1 を示します。

Discoverer 3.0 とは、リリース 3.0.8 とリリース 3.0.7 の両方を指します。

Administration Edition のインストール

Discoverer には、異なる 2 つのエディションがあります。

- Oracle Discoverer Administration Edition - Administration Edition、User Edition、SQL*Plus および SQL*Net を含む Discoverer ソフトウェアのすべてを含む。
- Oracle Discoverer User Edition - User Edition およびクライアントの User Edition ソフトウェアをデータベースに接続するための SQL*Net を含む。

このマニュアルでは、Discoverer 3.1 Administration Edition をインストールする方法を手順ごとに説明します。この章では、次の内容について説明します。

- [データベース要件](#)
- [クライアント・プラットフォーム要件](#)
- [Administration Edition のインストール](#)
- [Oracle Discoverer 3.0.8、Discoverer 3.0.7 からのアップグレード](#)

注意：

SQL*Plus は、ここで指定される用途にだけ使用できる「限定使用プログラム」です。この「限定使用プログラム」は、Oracle Discoverer リリース 3.1 の接続テストにだけ使用できます。「限定使用プログラム」は、一般的なデータ処理または前述の指定事項以外の目的には使用できません。

1.1 データベース要件

Oracle データベースで Discoverer Administration Edition を使用するには、次の Oracle データベースおよびサポート・ソフトウェアの 1 つがインストールされていなければなりません。

- Oracle8 で、サーバー上に Net8 リスナーがインストールされ、動作していること

- Personal Oracle8

注意：

Discoverer は、クライアント / サーバー構成の Personal Oracle 8.0.3 だけでサポートされます。同一マシン上での Personal Oracle 8.0.3 ではサポートされません。

- Oracle7 リリース 7.1.6 以降
- Personal Oracle7 リリース 7.3 以降で、サーバー上に SQL*Net がインストールされ、動作していること

注意：

Personal Oracle7 で Discoverer 3.1 を使用するためには、SQL*Net Add-on がインストールされていなければなりません。Add-on のインストール方法は、リリース・ノートを参照してください。

Discoverer の ODBC 互換性によって、Oracle データソース以外でも Discoverer Administration Edition を使用できます。Discoverer でサポートする ODBC ソースには、次のものがあります。

注意：

日本語版は ODBC をサポートしません。

- Microsoft SQL Server リリース 6.5 に Service Pack 4 を適用したもの
- 次のような ODBC レベル 2 に準拠するデータソース

- Btrieve
- DB/2
- dBase
- Excel 5
- Excel
- Informix 5
- Informix 7
- Ingres
- Oracle7
- Paradox
- SQLBase

SQL Server
 SQL Server 6
 Sybase
 ASCII

1.2 クライアント・プラットフォーム要件

Discoverer を使用するには、次の仕様を満たす必要があります。

- 486/66Mhz 以上のマシン
- Windows95 または Windows NT バージョン 3.51、4.0、またはそれ以降
- クライアント・プラットフォーム (Discoverer をインストールするマシン) に Net8 クライアントがインストールされていること、およびデータベース・サーバーに接続するために、TCP/IP など、適切なネットワーク・プロトコルが用意されていること
- クライアント・マシンとデータベース・サーバー間で、ネットワークが確立され、データベースが接続されていること
- 最小限必要な RAM サイズ

Windows95	Windows NT
24 MB	32 MB

- 最小限必要なディスク領域

マシン上に単純に (はじめて) Oracle8 クライアント製品をインストールする場合、

	User Edition	Admin. Edition
最大構成	110 MB	125 MB
最小構成	70 MB	76 MB

マシン上に既に Oracle8 クライアント製品がインストールされている場合、

	User Edition	Admin. Edition
最大構成	75 MB	87 MB
最小構成	17 MB	22 MB

注意：

前述のディスク領域の要件は、一般的なシステム構成に基づいたものです。実際の数値は、ハード・ドライブのサイズおよび使用するファイル・システムの形式によって異なる可能性があります。

1.3 Discoverer Administration Edition のインストール

ここでは、クライアント・ワークステーションに Administration Edition をインストールする方法を説明します。Oracle 製品をこれまでにインストールしていない場合は、このインストールが終了すると、「スタート」メニューにこのアプリケーションとサポートに関する文書を伴った新しいプログラム・グループがいくつか作成されます。

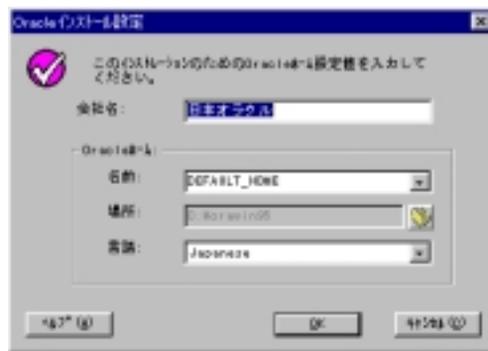
1. Oracle Discoverer 3.1
 - Oracle Discoverer
 - Oracle Discoverer Administration
 - Migrate Queries from Discoverer/2000
2. Oracle Discoverer 3.1 Documentation
 - Administration Guide
 - Administration Help
 - Discoverer Admin Edition Quick Tour
 - User Guide
 - User Help
 - User Quick Tour
 - User Edition Tutorial
 - Release Notes
3. Oracle for Windows95 または Oracle for Windows NT
 - Oracle Installer
 - Oracle Net8 Assistant
 - SQL Net8 Easy Config
 - SQL Plus 8.0
 - Oracle SQL Plus 8.0 Readme

1.3.1 Discoverer Administration Edition のインストール

1. Discoverer Administration Edition の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットすると、Oracle Installer が自動的に起動されます。自動的に起動されない場合は、Windows のエクスプローラを使って CD-ROM にアクセスし、CD-ROM のルート・ディレクトリから **setup.exe** を実行してください。

Oracle Installer のローディングが完了すると、「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 1-1 「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックス



2. 該当するフィールドに会社名を入力します。
3. 「名前」フィールドで「DEFAULT_HOME」を選択して ORACLE_HOME ディレクトリを定義します。Discoverer 3.1 では、ORACLE_HOME だけが DEFAULT_HOME としてサポートされます。
4. 「場所」フィールドに ORACLE_HOME ディレクトリを指定します。このディレクトリは、Oracle 製品すべてのルート・ディレクトリとして使用されます。

このインストールが Oracle 製品として最初のインストールである場合は、デフォルト・ディレクトリをそのまま受け入れるか、またはディレクトリ・パスを入力できます。右側にある参照ボタンをクリックして、ディレクトリをナビゲートすることもできます。

マシン上にすでに Oracle 製品がインストールされている場合、ORACLE_HOME はすでに定義されているために、このフィールドは淡色表示になります。

5. ドロップダウン・リストから Administration Edition をインストールする言語を選択します。

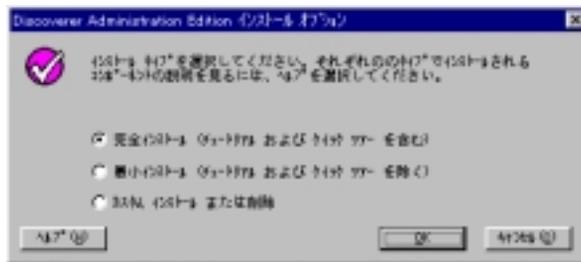
- 「OK」ボタンをクリックして先に進みます。

注意：

マシン上に Personal Oracle7 または Personal Oracle8.0.3 がインストールされている場合は、メッセージ・ボックスが表示されます。先に進む前に、インストールに関する特別な指示について、Discoverer 3.1 のインストール CD-ROM にある Install.wri ファイルを参照してください。

「Discoverer Administration Edition インストールオプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 1-2 「Discoverer Administration Edition インストールオプション」ダイアログ・ボックス



- 次のオプションから 1 つを選択します。

完全インストール - Administration Edition、User Edition およびチュートリアル・セットアップ・ファイルを含む Discoverer のパッケージがすべてインストールされる。

最小インストール - Administration Edition と User Edition ソフトウェアがインストールされる。オンライン・マニュアルはインストールされません。

カスタム インストールまたは削除 - インストールできるすべてのアイテムがリストされる。必要なディスク容量は選択によって異なります。

ODBC ユーザーへの注意：

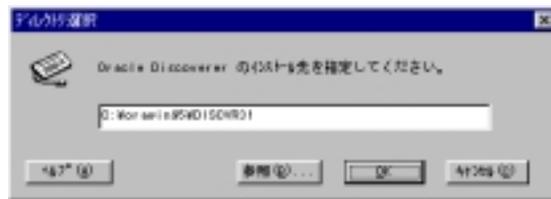
ODBC 経由でデータソースに接続している場合は、データソースのベンダーが提供する ODBC ドライバの使用をお勧めします。ベンダーが ODBC ドライバを提供しない場合は、Discoverer のインストールによって提供される INTERSOLV DataDirect Driver を使用できます。このドライバは、「カスタム インストール」オプションで選択できます。

Developer/2000 Reports ユーザーへの注意 :

Discoverer 3.1 のワークシートを Developer/2000 Reports の形式でエクスポートする場合は、「カスタム インストール」オプションを使用して Developer/2000 Reports API をインストールしてください。

8. 「OK」ボタンをクリックして先に進みます。
「カスタム インストールまたは削除」を選択したときは、セクション「[1.3.2 カスタム・インストールの実行](#)」に進んでください。
「最小インストール」または「完全インストール」を選択したときは、「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが表示され、そこで Oracle Discoverer 3.1 をインストールするディレクトリを指定します。

図 1-3 「ディレクトリ選択」- Oracle Discoverer 3.1



9. Discoverer 3.1 Administration Edition と User Edition をインストールするディレクトリを選択します。デフォルト・ディレクトリは [ORACLE_HOME]¥discvr31 です。

警告 :

Discoverer 3.1 は、Discoverer 3.0 と同じディレクトリにインストールできません。リリース 3.0 が使用できなくなります。ORACLE_HOME 内の独立したディレクトリに Discoverer 3.1 をインストールすると、3.0 と 3.1 の両方のリリースを使用することができます。

10. 「OK」をクリックします。「確認」ダイアログ・ボックスが表示され、そこで Administration Edition クイック・ツアーをインストールするかどうかを選択します。

図 1-4 「確認」ダイアログ・ボックス



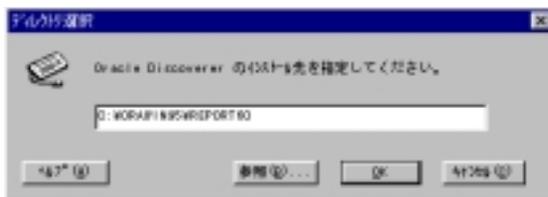
11. ローカル・マシンに Administration Edition クイック・ツアーをインストールする場合は、「はい」をクリックします。

Discoverer インストール CD-ROM から Administration Edition クイック・ツアーを実行する場合は、「いいえ」をクリックします。

選択に従って「Discoverer 3.1 Documentation」プログラム・グループにアイテムが作成されます。

「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが表示され、そこで Developer/2000 Reports API をインストールするディレクトリを指定します。

図 1-5 「ディレクトリ選択」- Developer/2000 Reports - API



12. Reports API をインストールするディレクトリを入力するか、またはデフォルト・ディレクトリを受け入れて、「OK」をクリックします。

Oracle Installer により、必要なソフトウェアがインストールされ、適切なプログラム・グループとアイテムが作成されます。「インストール完了」ダイアログ・ボックスが表示され、README ファイルを表示するかどうかを選択します。

図 1-6 「インストール完了」ダイアログ・ボックス



13. README ファイルを表示する場合は「はい」をクリックします。Microsoft ワードパットが開きます。Oracle Installer は自動的にクローズされます。

注意：

ここで表示される README は英語のものです。日本語の README はスタートメニューから開くことができます。

これでインストールは完了です。Discoverer Administration Edition で作業する準備が整いました。

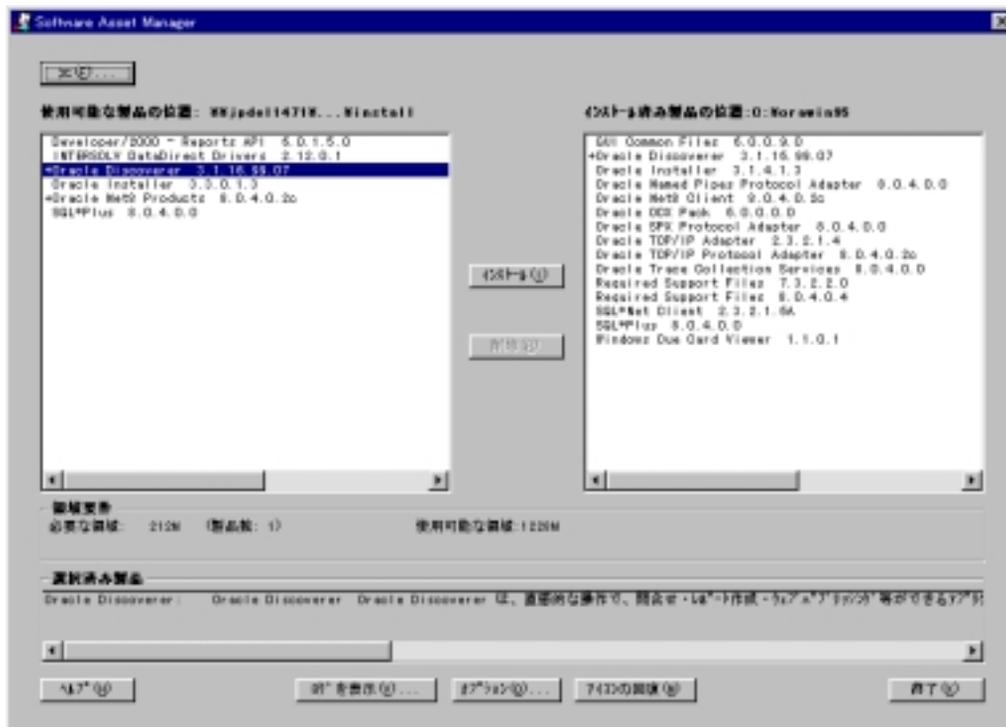
次のステップ

- 今回、初めて Oracle Discoverer をインストールした場合は、次のステップとしてデータベースにアクセスして End User Layer を作成します。詳細情報は、『Oracle Discoverer 3.1 管理ガイド』の次のセクションを参照してください。
 - 第 3 章「チュートリアル」
 - 第 4 章「EUL の管理」
- Oracle Discoverer 3.0.7 または Discoverer 3.0.8 からアップグレードしている場合は、セクション「1.4.2 End User Layer のアップグレード」に進んでください。

1.3.2 カスタム・インストールの実行

「Discoverer Administration Edition インストール オプション」ダイアログ・ボックスから「カスタム インストールまたは削除」を選択すると、「Software Asset Manager」が表示されます。

図 1-7 「Software Asset Manager」



1. 「使用可能な製品」のリストからインストールする適切なソフトウェアを選択し、「インストール」をクリックして先に進む。

ODBC ユーザーへの注意：

ODBC 経由でデータソースに接続している場合は、データソースのベンダーが提供する ODBC ドライバの使用をお勧めします。ベンダーが ODBC ドライバを提供しない場合は、Discoverer のインストレーションによって提供される INTERSOLV DataDirect Driver を使用できます。

- 「INTERSOLV DataDirect Drivers 2.12.0.1」を選択します。

Developer/2000 Reports ユーザーへの注意：

Discoverer 3.1 のワークシートを Developer/2000 Reports の形式でエクスポートする場合は、Developer/2000 Reports API をインストールしてください。

- 「Developer/2000 - Reports API 6.0.1.6.0」を選択します。

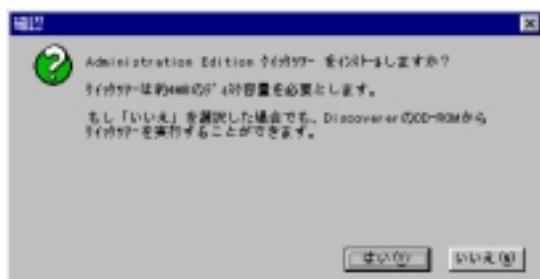
2. 続いて表示されるダイアログ・ボックスで、Discoverer 3.1 Administration Edition と User Edition をインストールするディレクトリを選択します。デフォルト・ディレクトリは [ORACLE_HOME]¥discvr31 です。

警告：

Discoverer 3.1 は、Discoverer 3.0 と同じディレクトリにインストールできません。リリース 3.0 が使用できなくなります。ORACLE_HOME 内の独立したディレクトリに Discoverer 3.1 をインストールすると、3.0 と 3.1 の両方のリリースを使用することができます。

「確認」ダイアログ・ボックスが表示され、そこで Administration Edition クイック・ツアーをインストールするかどうかを選択します。

図 1-8 「確認」ダイアログ・ボックス



- ローカル・マシンに Administration Edition クイック・ツアーをインストールする場合は、「はい」をクリックします。

Discoverer インストール CD-ROM から Administration Edition クイック・ツアーを実行する場合は、「いいえ」をクリックします。

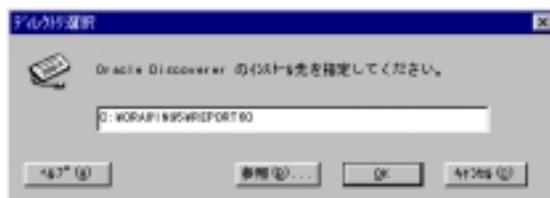
選択に従って「Discoverer 3.1 Documentation」プログラム・グループにアイテムが作成されます。

Developer/2000 Reports API または INTERSOLV DataDirect Drivers のインストールを選択していない場合は、Oracle Installer によって必要なソフトウェアがインストールされ、適切なプログラム・グループが作成されます。インストールが完了すると、メッセージ・ボックスが表示されます。

Developer/2000 Reports API のインストール方法

Developer/2000 Reports API のインストールを選択すると、「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが表示され、そこで Developer/2000 Reports API をインストールするディレクトリを指定します。

図 1-9 「ディレクトリ選択」- Developer/2000 Reports - API



- Reports API をインストールするディレクトリを入力して「OK」をクリックする。

INTERSOLV DataDirect Driver のインストール方法

INTERSOLV DataDirect Driver のインストールを選択すると、「INTERSOLV DataDirect ドライバ選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

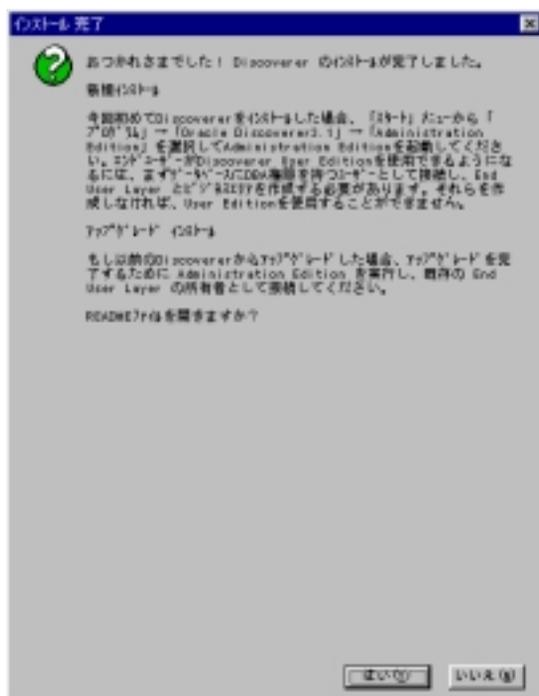
図 1-10 「INTERSOLV DataDirect ドライバ選択」ダイアログ・ボックス



5. データソースに対して適切な INTERSOLV DataDirect ドライバを選択して「OK」をクリックします。

Oracle Installer により、必要なソフトウェアがインストールされ、適切なプログラム・グループとアイテムが作成されます。「インストール完了」ダイアログ・ボックスが表示され、README ファイルを表示するかどうかを選択します。

図 1-11 「インストール完了」ダイアログ・ボックス



6. README ファイルを表示する場合は「はい」をクリックします。Microsoft ワードパットが開きます。
7. 終了したら Oracle Installer に戻り、「終了」を選択します。

これでインストール作業は完了です。Discoverer Administration Edition で作業する準備が整いました。

次のステップ

- 今回、初めて Oracle Discoverer をインストールした場合は、次のステップとしてデータベースにアクセスして End User Layer を作成します。詳細情報は、『Oracle Discoverer 3.1 管理ガイド』の次のセクションを参照してください。
 - 第 3 章「チュートリアル」
 - 第 4 章「EUL の管理」
- Oracle Discoverer 3.0.7 または Discoverer 3.0.8 からアップグレードしている場合は、セクション「[1.4.2 End User Layer のアップグレード](#)」に進んでください。

1.4 Discoverer 3.1 へのアップグレード

Discoverer 3.1 へのアップグレードは、現バージョンの Discoverer の End User Layer(EUL) 表を使用してバージョン 3.1 の EUL に作り直す簡単なプロセスです。

このプロセスには次のステップが含まれます。

1. 現 EUL をエクスポートする
2. Oracle Discoverer 3.1 をインストールする
3. EUL をアップグレードする
4. ユーザーを Discoverer User Edition 3.1 にアップグレードする
5. Discoverer 3.0 EUL を削除する
6. Discoverer 3.0 ソフトウェアを削除する

Discoverer リリース 3.0.8 からのアップグレード

Discoverer リリース 3.0.8 からリリース 3.1 へのアップグレードは、ユーザーを新規リリースに徐々に移行できるように設計されています。End User Layer(EUL) のアップグレードは、3.0.8 の EUL をコピーし、3.1 の EUL にアップグレードするという危険性のないプロセスです。既存のユーザーは、アップグレード・プロセスの間にも Discoverer 3.0.8 で作業を継続することができます。

Discoverer リリース 3.0.7 からのアップグレード

リリース 3.0.7 の EUL のアップグレードは、アップグレード・プロセスを開始すると同時に Discoverer リリース 3.0.7 を使用できなくなるという危険性のあるプロセスです。

アップグレード・プロセスは、最初に 3.0.7 の EUL を 3.0.8 の EUL に変換し、次に 3.0.8 からの EUL のアップグレード・プロセスと同じように残りのプロセスが実行されます。したがって、アップグレード・プロセスの終了時点で、EUL を所有するデータベース・アカウントには 3.1 の EUL と 3.0.8 の EUL が含まれます。

Discoverer 3.1 へアップグレードする前に

標準的なデータベースのエクスポート機能を使用して EUL 表をエクスポートします。このエクスポートしたファイルは、現 EUL のバックアップになります。

1. 「スタート」メニューから「プログラム」、「MS-DOS プロンプト」または「コマンドプロンプト」を実行する。
2. [ORACLE_HOME]¥discvr30 のディレクトリに移動する。
3. プロンプトで次のコマンドを入力する。

```
exp [EULowner]/[password] file=[filename.dmp] owner=[eulowner]  
例： exp HREul/HRpswrd file=hreul.dmp owner=hrmgr
```

すべての EUL 表とそれに対応付けられたシノニム、ビュー、およびその他の定義すべてがエクスポートされると、次のメッセージが表示されます。

エクスポートは警告なしで終了しました。

*.dmp ファイルは、[ORACLE_HOME]¥discvr30 ディレクトリに保存されます。

- 各 EUL について、ステップ 1 からステップ 3 を繰り返す。

これで Discoverer 3.1 にソフトウェアをアップグレードする準備が整いました。

1.4.1 Discoverer Administration Edition 3.1 へのアップグレード

Discoverer 3.0 の EUL をエクスポートした後は、Discoverer 3.1 Administration Edition にアップグレードします。セクション「[1.3 Discoverer Administration Edition のインストール](#)」を参照して Discoverer 3.1 Administration Edition をインストールしてください。

警告：

Discoverer 3.1 は、Discoverer 3.0 と同じディレクトリにインストールできません。リリース 3.0 が使用できなくなります。ORACLE_HOME 内の独立したディレクトリに Discoverer 3.1 をインストールすると、3.0 と 3.1 の両方のリリースを使用することができます。

1.4.2 End User Layer のアップグレード

Discoverer 3.1 のソフトウェアのインストールが完了した後は、リリース 3.1 で作業を行うために 3.0 の EUL をアップグレードする必要があります。

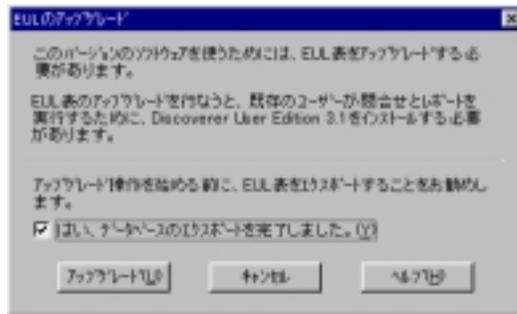
警告：

アップグレード中は、(3.1 の EUL に移動するデータの一貫性を保持するために) Administration Edition から 3.0.8 の EUL に接続しないように注意してください。

1. 「Oracle Discoverer 3.1」プログラム・グループから、「Oracle Discoverer Administration」を選択する。「よろこそ」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「開始」を選択する。「接続」ダイアログ・ボックスが表示されます。

アップグレードする Discoverer 3.0 の EUL のユーザー名とパスワードを入力します。「EUL のアップグレード」ダイアログ・ボックスが表示され、そこで EUL をアップグレードするためのプロンプトが自動的に表示されます。

図 1-12 「EUL のアップグレード」ダイアログ・ボックス



- a. このチェック・ボックスをクリックして、Discoverer 3.0 の EUL をエクスポートしたことを確認します。

注意：

3.0 の EUL をエクスポートしていない場合は、1-21 “[Discoverer 3.1 へアップグレードする前に](#)” を参照してください。

- b. 「アップグレード」をクリックする。

Discoverer 3.1 Administration Edition により、EUL のバージョン（3.0.7 または 3.0.8）が検出されます。

Discoverer 3.0.8 ユーザーへの注意：

「アップグレード」を選択すると、3.0.8 の EUL からコピーしたデータを使用して新たに 3.1 の EUL が作成されます。3.1 の EUL を所有するアカウントは、3.0.8 の EUL を所有するアカウントと同じになります。既存の 3.0.8 ユーザーは、このアップグレードによって影響されることはありません。

Discoverer 3.0.8 で内部管理サマリー・フォルダを使用している場合、これらのフォルダは 3.1 の EUL とともにコピーされます。これらのフォルダを複製するための十分な表領域を確保してください。

Discoverer 3.0.7 ユーザーへの注意：

「アップグレード」を選択すると、Discoverer 3.0.7 を使用してその EUL に接続することはできなくなります。Discoverer 3.1 を使用して EUL に接続してください。

EUL をアップグレードするように選択すると、EUL アップグレード進行状況バーにアップグレード状況が表示されます。アップグレードが完了すると、次のメッセージが表示されます。

図 1-13 Oracle Discoverer Administration Edition の EUL アップグレード通知



これで EUL のアップグレードが完了しました。Discoverer Administration Edition 3.1 を使用してデータベースに接続する場合にこの EUL を使用します。EUL の準備が整ったので、次はユーザーを Discoverer 3.1 User Edition にアップグレードします。

1.4.3 内部管理サマリーのアップグレード

リリース 3.0.8 の内部管理サマリーの定義は、新しい 3.1 の EUL 内にコピーされます。ただし、アップグレード時にサマリー・データは収集されません。かわりに、サマリーのリフレッシュステータスが「要リフレッシュ」に変更されます。

内部管理サマリーをリフレッシュします。サマリーがリフレッシュされると、Discoverer Administration Edition 3.1 により、新規サマリー・データが作成されます。その後、このサマリーは User Edition での問合せを最適化するために使用されます。

1. 「ツール」メニューから「サマリーのリフレッシュ」を選択します。「Oracle Discoverer Administration Edition」メッセージ・ボックスが表示され、そこでサマリーのリフレッシュを選択できます。

図 1-14 「Oracle Discoverer Administration Edition」メッセージ・ボックス



2. サマリーをただちにリフレッシュするには「はい」をクリックする。

データベース・サーバーで直接リフレッシュするようにスケジュールすることもできます。

外部独立サマリー

Discoverer の外部でサマリーを管理している場合、これ以外の作業は必要ありません。外部独立サマリーはアップグレードによって影響を受けることはなく、Discoverer 3.1 からアクセスできます。

外部管理サマリー

これらの表はリフレッシュの必要がありません。外部管理サマリーをリフレッシュする定期的な手続きを実行すると、これらのサマリーが更新され、Discoverer 3.1 からアクセスできます。

次のステップは、User Edition 3.1 用にユーザーをアップグレードすることです。すべてのユーザーをアップグレードして Discoverer 3.1 で問題なく作業が実行できることを確認した後で、3.0 の EUL とそれに対応付けられたサマリー表を削除します。

1.4.4 Discoverer 3.1 User Edition へのユーザーのアップグレード

ユーザーをアップグレードする手順は、クライアント・マシンに User Edition の CD-ROM から Discoverer User Edition リリース 3.1 を単にインストールするだけです。Oracle Installer により、Discoverer 3.0.8 とは別のディレクトリに Discoverer 3.1 が自動的にインストールされます。

警告：

Discoverer 3.1 は、Discoverer 3.0 と同じディレクトリにインストールできません。リリース 3.0 が使用できなくなります。ORACLE_HOME 内の独立したディレクトリに Discoverer 3.1 をインストールすると、3.0 と 3.1 の両方のリリースを使用することができます。

Discoverer 3.0.8 からアップグレードするユーザーへの注意：

ユーザーが 3.0.8 または 3.1 のいずれかで引き続き作業が行えるように、徐々にアップグレードできます。ただし、Discoverer 3.0.8 と Discoverer 3.1 を同時に使用している場合、ユーザーが一方の Administration Edition を使用して変更した内容は、他方のバージョンには反映されません。

ユーザーが User Edition に初めてログインすると、このユーザーがアクセスするリリース 3.1 の EUL が検索されます。

- 有効な EUL が見つかった場合は、データベースに接続され、Discoverer リリース 3.1 での作業が可能な状態になります。
- 有効な EUL が見つからない場合は、データベースに接続できなかったことが通知されます。この場合、ユーザーはメッセージ内容をデータベース管理者に連絡してください

い。このユーザーはリリース 3.0.8 の User Edition を使用して既存のリリース 3.0.8 の EUL にアクセスすることはできません。

Discoverer User Edition 3.1 がインストールされ、リリース 3.1 の EUL を通じてデータベースへの接続が確立された後は、Discoverer 3.1 の CD-ROM の Oracle Installer を使用してユーザーのマシンから Discoverer User Edition 3.0.8 を削除します。

すべてのユーザーについて、Discoverer User Edition 3.1 へのアップグレードが完了したら、Discoverer 3.0.8 の EUL とそれに対応付けられた表をデータベースから削除します。詳細情報は、「[1.4.5 Discoverer 3.0.8 End User Layer の削除](#)」を参照してください。この手続きにより、3.0 の EUL 表を 3.1 の EUL にコピーするために必要であった表領域が解放されます。

1.4.5 Discoverer 3.0.8 End User Layer の削除

ユーザーを Discoverer 3.1 にアップグレードし、そのユーザーが 3.1 の EUL を通じてデータベースに正常に接続されたら、3.0.8 の EUL を削除します。この処理は、SQL スクリプトを使用して実行され、3.0.8 の EUL とそれに対応付けられたすべての表（内部管理サマリーを含む）が削除されます。

1. 「Oracle for Windows95」または「Oracle for Windows NT」プログラム・グループから、「SQL*Plus 8.0」を実行する。
2. EUL パスワードと接続文字列を使用して EUL 所有者としてログインする。
3. 次のように入力して SQL スクリプトを実行する。

```
SQL>@[ORACLE_HOME]¥Discvr31¥sql¥eul30dt.sql
```

Discoverer End User Layer データベース表（3.0.8 製品）の削除スクリプトが表示されます。このスクリプトによって、リリース 3.0.8 の EUL とそれに対応付けられたデータベース・オブジェクト（サマリー表も含む）が削除されます。

次のテキスト・メッセージが表示されます。

```
Discoverer End User Layer Database Tables (3.0.8 Production)  
deinstallation
```

```
This script will remove a version 3.0.8 EUL and any associated database  
objects.
```

```
It will:
```

- 1) Ask you to enter the ORACLE SYSTEM password and connect string.
- 2) Ask you to enter the name and password of the 3.0.8 EUL owner.
- 3) Confirm that you wish to drop the 3.0.8 EUL.
- 4) Check for database jobs for users other than the 3.0.8 EUL owner.
- 5) Confirm whether to drop 3.0.8 tutorial tables (if any).
- 6) Log in as the 3.0.8 EUL owner and remove any database jobs for it.
- 7) Remove all summary database objects for the 3.0.8 EUL.
- 8) Remove the 3.0.8 EUL tables.
- 9) Remove user and public synonyms (if any) for the 3.0.8 EUL tables.

4. ORACLE SYSTEM パスワードを入力する。

5. データベース接続文字列を入力する。
6. 3.0.8 の EUL 所有者の名前とパスワードを入力する。

確認情報およびこのプロセスを元に戻せないという内容の警告が、次のようにテキストで表示されます。このプロセスによって、リリース 3.1 の End User Layer に影響が及ぶことはありません。

```
Preparing to remove EUL 3.0.8 owned by <username> at <today's date>
If you continue, the specified 3.0.8 End User Layer will be PERMANENTLY
dropped. All End User Layer information and workbooks stored in the database
will be deleted.
Any 3.1 End User Layer tables will NOT be affected by this process.
THIS PROCESS IS NON-REVERSIBLE.
Do you wish to continue [N]:
```

7. 「Y」を入力して、リリース 3.0.8 の EUL に対する削除を確認する。

注意：

大カッコ ([]) 内に表示されているデフォルトの回答を選択する場合は、[Enter] を押します。

リリース 3.0.8 の EUL の削除が開始されます。

リリース 3.0.8 の削除プロセスでは、EUL 所有者以外のユーザーが所有するサマリー・ジョブがないかどうかチェックされます。

```
Dropping Summary Tables in the EUL
```

- 他のユーザーが所有するサマリー・ジョブがないときは、3.0.8 の EUL が削除されます。削除プロセスの各段階で、次のような各種メッセージが表示されます。

```
Removing summary refresh jobs...
Dropping internally managed summary data...
Dropping 3.0.8 End User Layer Tables...
Removing public synonyms (if any)...
Finished removing 3.0.8 End User Layer
```

- EUL 所有者以外のユーザーが所有するサマリー・ジョブがあるときは、次のメッセージが表示され、アップグレードが中断されます。

```
The following users have managed summaries which must be dropped before this
EUL can be deinstalled:
User: SCOTT, Summary: Scott's Summary
User: FRED, Summary: Fred's Summary
etc.
Quitting - no changes made.
```

このメッセージが表示されたときは、指定されたユーザーが Administration Edition 3.0.8 にログインし、指定されたサマリーを削除する必要があります。『Oracle Discoverer 3.0 管理ガイド』の第 8 章「サマリーウィザードの使用」を参照してください。これらのサマリーを削除した後は、3.0.8 の EUL を削除するために再度 eul30dt.sql スクリプトを実行してください。

Oracle Discoverer をインストールまたはアップグレードするための詳細情報は、Discoverer 3.1 の CD-ROM にある `Install.wri` ファイルを参照してください。

1.4.6 Oracle Discoverer Administration Edition 3.0 の削除

ユーザーが Discoverer 3.1 に接続され、サマリーが動作していることを確認できたら、Discoverer Administration Edition 3.0 を削除してもかまいません。

1. Discoverer Administration Edition 3.1 の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットします。Oracle Installer が自動的に起動されます。自動的に起動されない場合は、Windows のエクスプローラを使って CD-ROM にアクセスし、CD-ROM のルート・ディレクトリから `setup.exe` を実行してください。

Oracle Installer によるローディングが完了すると、「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。

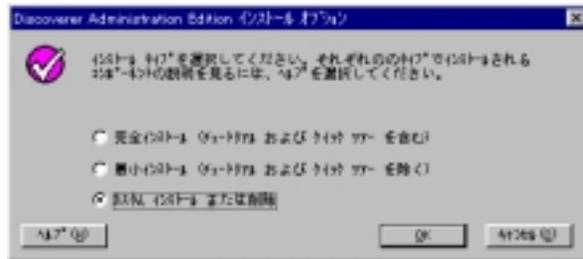
図 1-15 「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックス



2. 「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスに、次の事項が表示されます。
 - 会社名
 - DEFAULT_HOME または他 ORACLE_HOMES
 - ORACLE_HOME のディレクトリ位置
 - 現在インストールされている Oracle 製品の言語

3. 「OK」ボタンをクリックして先に進みます。「インストールオプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 1-16 「Discoverer Administration Edition インストールオプション」ダイアログ・ボックス



4. 「カスタム インストールまたは削除」を選択する。「Software Asset Manager」が表示されます。

図 1-17 「Software Asset Manager」



5. 右側のパネルから「Oracle Discoverer 3.0」を選択する。
6. 「削除」をクリックする。
7. Discoverer 3.0 のワークブックを 3.1 で使用する新しいディレクトリに移動する。

Installer によって既存のコードおよびサポート・ファイルがすべて削除されます。ワークブックは [ORACLE_HOME]¥discvr30 のディレクトリに残っています。必要に応じて、これらのワークブックを新しい ¥discvr31 のディレクトリに移動し、¥discvr30 フォルダを削除します。

これで Discoverer Administration Edition および User Edition バージョン 3.1 で作業する準備がすべて整いました。Administration Edition で行なう作業の詳細については、『Oracle Discoverer 3.1 管理ガイド』を参照してください。

Discoverer/2000 からの移行

Discoverer 3.1 は、Discoverer/2000 の Oracle Browser と Oracle Data Query の両方の機能を統合し拡張します。この章では、Discoverer/2000 のコンポーネントをより強力で新しい Discoverer 3.1 に移行する手順を説明します。

2.1 概要

Discoverer 3.1 の End User Layer(EUL) は、Discoverer/2000 に付属していた EUL を機能面と性能面で強化したものです。Oracle Data Query または Oracle Browser を使用している場合は、ビジネスエリアと既存の問合せを Discoverer 3.1 に移行できます。Oracle Browser Extended Edition のデータ編集機能およびスキーマ編集機能を使用している場合は、Developer/2000 を使用してこれらの編集機能を引き続き使用できます。

Discoverer/2000 の .eul ファイルをインポートするためには、ロールバック・セグメント内にこのファイル・サイズの 10 倍の領域が必要です。

移行が完了すると、Discoverer 3.1 で新規 EUL に、Discoverer/2000 で既存の EUL に、それぞれ同時にアクセスできます。

2.2 互換性

Discoverer 3.1 では、Oracle Discoverer/2000 リリース 1.3.2 以降のバージョンでエクスポートしたビジネスエリアをインポートできます。

2.3 移行

次の 2 段階の手順で Discoverer/2000 から移行します。

1. Discoverer/2000 を使用して既存の EUL からビジネスエリアを移行する。
2. Discoverer 3.1 を使用して、既存の Oracle Data Query および Oracle Browser の問合せを移行する。データベースに保存されている Data Query の問合せと Browser の問合せ、および .BRW ファイルを移行できます。

2.3.1 既存の EUL からビジネスエリアを移行する

Discoverer/2000 の Data Query Administration Utility を使用してビジネスエリアを一度ファイルにエクスポートし、そのビジネスエリアを Discoverer 3.1 にインポートします。

開始する前に

リリースノートを参照してください。

注意：移行プロセスにより、ビジネスエリア内にある次のテキスト要素が変換または切捨てられます。

- Discoverer/2000 では 255 文字まで可能な項目の見出しは 240 文字に切捨てられる。
- Discoverer/2000 では 2000 文字まで可能な項目のコメントは 240 文字に切捨てられる。
- Discoverer/2000 では 2000 文字まで可能なオブジェクトのコメントは 240 文字に切捨てられる。
- 数行にわたる項目の見出しは、1 行の見出しに変換される。この見出しは、Discoverer User Edition 3.1 で複数行にして表示することができます。

Oracle Data Query Administration Utility を使ってビジネスエリアをエクスポートする手順は、次のとおりです。

1. Oracle Data Query Administration Utility を起動する。
2. メイン・ウィンドウの「エクスポート / インポート」ボタンをクリックする。
3. ラジオ・ボタンから「エクスポート」を選択する。ビジネスエリアの一覧が表示されません。
4. エクスポートするビジネスエリアを選択する。

注意：一度に 1 つのビジネスエリアしかエクスポートできません。

5. 「OK」をクリックする。

エクスポートすると、デフォルトで .EUL の拡張子のついたファイルが作成されます。このファイルはテキスト・ファイルとして読むことができます。

エクスポートを完了したら、次の操作を実行します。

- テキスト・エディタを使ってファイルを開く。.EUL ファイルの最初の行が次のようになっていることを確認します。

```
MEAT_DATA_XF_VERSION = 1.1
```

この行が「...=1.0」である場合は、ビジネスエリアは正しくエクスポートされていません。リリースノートを参照してください。

Discoverer 3.1 を使用してビジネスエリアをインポートする手順は、次のとおりです。

1. Oracle Discoverer 3.1 Administration Edition を起動する。
2. ロード・ウィザードで「キャンセル」をクリックする。
3. 「ファイル」メニューから「インポート」を選択する。「ビジネスエリアのインポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「Discoverer/2000 EUL エクスポートファイル (*.EUL)」ファイル・タイプを選択する。
5. インポートするファイルを選択する。
6. 適切なインポート・オプションを選択する。

Discoverer 3.1 の制限により、新しい EUL 上では同一名のオブジェクトは存在できません。重複を避けるために、次のインポート・オプションから 1 つを選択してください。

「オブジェクト名が既に存在する場合、インポート オブジェクト名を変更」

インポートするオブジェクトと同一名のオブジェクトがすでに EUL にある場合は、インポートするオブジェクト名の語尾に番号が追加されます。

たとえば、「部門」というオブジェクトがすでに EUL にある場合、インポートするオブジェクト名は「部門 1」になります。

「オブジェクト名が既に存在する場合、既存のオブジェクト名を変更」

インポートするオブジェクトと同一名のオブジェクトがすでに EUL にある場合、既存のオブジェクト名の語尾に番号が追加されます。たとえば、「部門」というオブジェクトがすでに EUL にある場合は、既存のオブジェクト名が「部門 1」になります。

「オブジェクト名が既に存在する場合、オブジェクトをインポートしない」

インポートするオブジェクトと同一名のオブジェクトがすでに EUL にある場合、オブジェクトはインポートされません。たとえば、「部門」というオブジェクトがすでに EUL にあり、同一名の別のオブジェクトをインポートしようとする、この新しいオブジェクトはインポートされません。

Discoverer 3.1 の EUL にビジネスエリアがインポートされるときは、「進行状況」ダイアログ・ボックスが表示されます。インポートが完了したら、次の操作を行いません。

7. 「OK」をクリックしてインポートを保存する。
インポートを取り消すには、「キャンセル」をクリックします。

2.3.2 既存の問合せの移行

既存の問合せを移行する手順は、次のとおりです。

1. 「スタート」メニューで Oracle Discoverer 3.1 のプログラム・グループから「Migrate Queries from Discoverer 2000」を選択する。
これにより「UPGRADE」オプション付きで Oracle Discoverer 3.1 が実行されます。EUL にすでに登録されている表またはビューにアクセスしている文書だけがアップグレードできます。
2. 文書をインポートしようとするユーザーとしてアカウントに接続する。「アップグレード」ウィザードが表示されます。
3. アップグレードする文書のタイプを選択する。
4. 次の手順に従って、問合せを移行する。

Browser 文書ファイル (.BRW ファイル) を移行する手順は、次のとおりです。

1. 「アップグレード」ウィザードで「完了」ボタンをクリックする。「ファイルを開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 移行する Browser ファイルを選択する。複数のファイルを選択できます。
移行された Discoverer 3.1 ファイルは、元の Browser ファイルと同じディレクトリに保存されます。

データベース上の Browser 文書または Data Query 文書を移行する手順は、次のとおりです。

1. 「アップグレード」ウィザードで「次へ」ボタンをクリックする。現在のユーザーおよびデータベース名が表示されます。
2. 別のユーザーとしてログインしたり、別のデータベースにログインするには「その他」をクリックする。(これはオプションです。)
3. 移行する文書を所有するユーザーを選択する。(これはオプションです。)
すべての文書をアップグレードする場合は、「すべてのユーザー」を選択します。

注意：アクセスできる文書だけが表示され、移行することができます。

4. 移行する文書名を絞り込むために適切なワイルドカードを入力する。(これはオプションです。)

たとえば、「YEAR」で始まるすべての文書を表示するには、「YEAR%」を入力します。

注意: ワイルドカードは SQL の規格に従って、大文字と小文字が区別されます。

5. 「次へ」をクリックする。
使用可能な文書で検索基準に合っているものがすべてウィンドウに表示されます。
6. 移行する文書を選択する。
7. 「完了」ボタンをクリックして、移行を開始する。
文書が移行され、データベースに保存されます。

文書の移行を実行すると、ダイアログ・ボックスが表示されます。移行が完了すると、アップグレードされた文書とアップグレードに失敗した件数がこのダイアログ・ボックスに表示されます。アップグレードに失敗した理由を確認するには「ログの表示」をクリックします。ログ・ファイルが表示されます。

このログ・ファイルは次の位置に格納されています。

```
HKKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥ORACLE¥DISCOVERER¥APPLICATION¥SWAPDIR
```

ログ・ファイル名は LOG.TXT になります。このテキスト・ファイルは、アップグレード・ユーティリティを実行するたびに生成し直されます。あるバージョンの LOG.TXT を保存する場合は、ファイルを表示したときに「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」を選択して、ファイルに別名を付けて保存してください。この操作は、アップグレードを再実行する前に行ってください。

エラー・メッセージ

アップグレード中に何らかのエラーが発生すると、エラー・ダイアログが表示されます。問題を解決してから、再度 Administration Edition に接続してください。アップグレード・プロセスは、エラーが発生した時点から自動的に続行されます。EUL のアップグレード中に発生する可能性のあるエラー・メッセージには、次のものがあります。

A.1 データベース・エラー

ORA-01536: 表領域 : [NAME] に対して割り当てられた領域を使い果たしました。

ORA-01653: 表 : [NAME.NAME] を拡張できません ([NUM] 分、表領域 : [NAME])

原因: 新規 EUL がリリース 3.0.8 の EUL 所有者用にデフォルトの表領域内に作成されましたが、表領域が不足しています。

対処: デフォルトの表領域として利用できる空き領域を増やしてください。ユーザーのデフォルト表領域内に空き領域が少ないことが検出されると、アップグレードを開始する前に、警告が発せられます。

ORA-10562: ロールバック・セグメント ID=[ID] の拡張に失敗しました。

ORA-01628: 最大エクステント : [NUM] に達しました (ロールバック・セグメント : [NUM])

ORA-01650: ロールバック・セグメント : [NAME] を拡張できません ([NUM] 分、表領域 : [NAME])

原因: ロールバック・セグメント用の領域が不足しています。リリース 3.0.8 の EUL からリリース 3.1 の EUL に情報を渡すときに、アップグレードによってデータベースのロールバック・セグメントに著しい負荷がかかっていることが原因です。

対処: ロールバック表領域用に空き領域を増やすか、または使用可能なロールバック・セグメントの最大エクステント数を増やします。

ORA-00054: リソース・ピジー、NOWAIT が指定されていました。

ORA-00055: 最大 DML ロック数を超えました。

原因: アップグレード・プロセスにより、情報がリリース 3.1 の EUL に渡されるときは、リリース 3.0.8 の EUL がロックされます。アップグレード中にリリース 3.0.8 の

Discoverer セッションがあると、ロック・エラーが発生する可能性があります。

対処: アップグレード中は、リリース 3.0.8 の Discoverer から接続しないようにします。

A.2 EUL 所有者以外へのメッセージ

End User Layers (EUL) へのアクセス権がありません。Discoverer を使用するためには、EUL を少なくとも 1 つ作成する必要があります。ここで EUL を作成しますか？

原因: EUL 所有者以外のユーザーとして Administration Edition 3.1 に接続している場合、または使用可能な 3.1 の EUL がない場合に表示されます。

対処: アップグレードを実行するには、EUL 所有者として Discoverer Administration Edition にログインする必要があります。

A.3 接続エラー

DCE.DLL バージョン 3.1 は End User Layer 表バージョン 3.1.0.7.0.0 以上を必要とします。

原因: User Edition 3.1 でリリース 3.0.8 の EUL に接続しました。

対処: リリース 3.0.8 の EUL をアップグレードするか、または新しくリリース 3.1 の EUL を作成してユーザーにアクセス権を付与してください。

データベースに接続できません。

原因: 利用可能な EUL のないデータベースに User Edition 3.1 で接続しました。

対処: 新規に作成したリリース 3.1 の EUL またはアップグレードしたリリース 3.1 の EUL に対するアクセス権をユーザーに付与してください。

索引

数字

3.0.8 EUL の削除 , 26

A

Administration Edition クイック・ツアー , 13, 17

D

DEFAULT_HOME, 11

Developer/2000 Reports API, 13, 18

Discoverer Administration Edition, 7

3.0 の削除 , 28

インストール , 10

ディレクトリの選択 , 13

プログラム・グループ , 10

Discoverer Administration Edition 3.0 のアンインストール , 28

Discoverer Administration Edition 3.0 の削除 , 28

Discoverer User Edition, 7

Discoverer/2000

Discoverer 3.1 への移行 , 31 35

Discoverer 管理ガイド , 16, 20

E

EUL

3.0.8 EUL の削除 , 26

アップグレード , 22

移植性 , 31

オブジェクトのインポート , 33

オブジェクト名の変更 , 33

管理 , 20

作成 , 20

問合せの移行 , 34, 35

ビジネスエリアの移行 , 32, 34

EUL オブジェクトのインポート , 33

EUL オブジェクト名の変更 , 33

I

Installer の開始 , 11, 28

L

log.txt, 35

O

ODBC

INTERSOLV DataDirect Driver, 12, 17, 19

準拠するデータソース , 8

Oracle Browser Extended Edition(Discoverer/2000), 31

Oracle Browser(Discoverer/2000), 31

移行の問題 , 35

文書の移行 , 34

Oracle Data Query(Discoverer/2000), 31

移行の問題 , 35

文書の移行 , 34

ORACLE_HOME, 11

Oracle7, 8

Oracle8

Net8, 9

Personal Oracle8, 8

要件 , 7

P

Personal Oracle8, 8

PT PrefaceTitle, v

S

SQL*Plus, 7

あ

アップグレード, 34

Discoverer 3.0.7 から, 21

Discoverer 3.0.8 から, 21

Discoverer 3.1 へ, 21

EUL, 22

外部管理サマリー, 25

外部独立サマリー, 25

内部管理サマリー, 24

い

移行, 31

問合せ, 34, 35

ビジネスエリア, 32, 34

問題, 35

インストールされたプログラム・グループ, 10

インストール

Administration Edition, 10

Administration Edition クイック・ツアー, 13, 17

Developer/2000 Reports API, 13, 17, 18

INTERSOLV DataDirect Driver, 12, 17, 19

カスタム, 16

クライアント・プラットフォーム要件, 9

ディレクトリの選択, 13

データベース要件, 7

インストール設定

DEFAULT_HOME, 11

ORACLE_HOME, 11

言語, 11

お

オペレーティング・システム, 9

か

開始, Installer, 11, 28

外部管理サマリー, 25

外部独立サマリー, 25

「カスタム インストール」オプション

Developer/2000 Reports API, 17

カスタム・インストール・オプション, 12, 16

Developer/2000 Reports API, 13, 18

INTERSOLV DataDirect Driver, 12, 17, 19

完全インストール・オプション, 12

管理ガイド, 16, 20

く

クイック・ツアー, 13, 17

クライアント・プラットフォーム要件, 9

け

言語, 11

限定使用プログラム, 7

さ

最小インストール・オプション, 12

サマリー

アップグレード, 24, 25

外部管理, 25

外部独立, 25

サマリーのリフレッシュ, 24

内部管理, 24

サマリーのリフレッシュ, 24

し

システム要件, 9

せ

接続

Discoverer Administration Edition, 22

そ

ソフトウェア要件, 7

て

ディレクトリの選択

Developer/2000 Reports API, 14

Discoverer Administration Edition, 13

データベース要件, 7

Oracle7, 8

Oracle8, 7

Personal Oracle8, 8

と

問合せ

移行, 34

な

内部管理サマリー, 24

名前の重複 (EUL オブジェクト), 33

は

ハードウェア要件, 9

はじめに

PT PrefaceTitle, v

ヘッダー

PH PrefaceHead, v

ひ

ビジネスエリア

移行, 32 34

互換性, 31

ビジネスエリアのインポート, 33

ビジネスエリアのエクスポート, 32

ふ

文書の移行, 34

ろ

ログ・オプションの表示, 35

ログ・ファイル

移行, 35

わ

ワイルドカード (文書の移行), 35

